

2025.12.17 甲府市議会本会議場 討論（発言原稿）

総合計画基本構想は一般論であり 抽象的過ぎて不安そのものです

山田 厚

議案第109号 第7次甲府市総合計画基本構想に不同意であり、討論をいたします。

●基本構想をはじめて読んだ時には少しあきれました。冒頭の4行ほどにある「武田信虎」と「ブドウ栽培」や「盆地」との言葉を除けば、残りは「リニア」「連携中枢都市圏」などの言葉だけが甲府市をあらわすものであり、全体が一般的・抽象的な内容そのものだったからです。

●「方向性を示す姿」では、国策の「柔軟な働き方」「多様化」の言葉が出てきたという感じだけで、労働法改悪に連動して心配です。

もっと心配なのは、基本目標です。

「未来に輝くひと」

「安全・安心で快適な街」

「甲府市の魅力を磨く」

などの内容を見ても、10年先でも10年後でも、日本全国どこでも使える曖昧なもので、具体性がなく役に立たないものと言えます。

「美辞麗句を並べる」との用語があります。それは、表面上は美しい文句を使い、相手に心地よく響くようにもしても、その言葉には本心や真実味が伴わない、うわべだけの表現とされます。それに等しくさえ感じます。

●作成に伴う**コンサルタント業者**への支払いは、令和6～7年度2376万円。10年前は1631万円のことですから、50%ほど負担が重く業者への費用が掛かっています。

約50%の負担増は、「物価高騰期で仕方がない」としても、もともと決まっている計画作成であれば、本来は業者に任せることではなく、市の職員を増やして職員を育てる意味で、担当部署含め、もっと庁内の人を活用すべきです。

●その職員の担当部署としては、企画部の政策課で昨年度から努力した基本構想となります。しかし昨年度のその政策課は、課長一人を除いて職員みんなが病気で休む事態もつづきました。また、今年度の政策課では、一人の職員を除いて総入れ替えになっています。今年度できた総合計画課がになうのでしょうか？　これではコンサルタント業者任せになってしまいます。

しかも今年度末の3月には具体的な個別実施計画を提示すべきですが、個別計画も一般的・抽象的なら意味がありません。しかも、財政的にも一年先もなかなか見通せない時期です・・・間に合いますか？

●現在とこれからは、長引くインフレ物価高騰期でもあり、強まりかねない休廃業・リストラ・倒産がつづく、生活と労働の困難期です。自治体の基本である「住民福祉の増進」の具体化が今後にとって極めて大切な期間となります。

しかし、その肝心な「住民福祉」「社会保障」や「生活」といった言葉すらもなく、あるのは「リニア」「連携中枢都市圏」の言葉だけです。これが甲府市の基本目標でいいのでしょうか？

今後10年間先の個別具体的な実地計画を伴う基本構想に信頼を託すことなどできません。なによりも私たちの生活に対する具体的な計画が見当たりません。

よって同意できないことを明らかとします。

※この基本構想の議案は賛成多数決となり、今年度3月の実施計画が心配です。